

超高速秘密分散に基づくデータ共有技術

2008年に、KDDI 研究所は、携帯電話やノート P C などのモバイル環境において特定のグループに属するメンバー間で情報を安全に共有する技術を開発した。開発したデータ共有技術は、携帯端末とネットワーク側のストレージサーバが連携することで、

- ①携帯端末の紛失・盗難による携帯端末からの情報漏えい防止
- ②携帯端末内のデータバックアップ機能
- ③バックアップ先のストレージサーバからの情報漏えい防止

の3つの機能をモバイル環境で実現する。本技術により、顧客情報などの重要なデータを安全に持ち出して外出先で参照することができるため、情報セキュリティ対策によって利便性を損なうことはない。また、本技術はストレージサーバからの情報漏えいも防ぐことができるため、企業内部における不正行為による情報漏えいも防ぐことができる。本技術の適用例としては、社内担当者間での顧客情報の共有、共有コンテンツの著作権管理などがある。本技術においては、共有データの暗号化に利用した暗号鍵を、超高速秘密分散技術を用いてグループメンバー間で共有することで安全なデータ共有を実現している。この秘密分散技術で用いる分散鍵をグループメンバーの所有する携帯端末およびストレージサーバに適切に配布し、携帯端末のみ、およびストレージサーバのみによるデータの参照を防ぐことで、双方からの情報漏えい防止を実現する。さらに、データの暗号鍵の共有に焦点を置くことで、データ量の小さな鍵情報の送受信のみで携帯端末内のデータの参照、保護が可能となり、モバイル環境でもストレスなく利用できる。

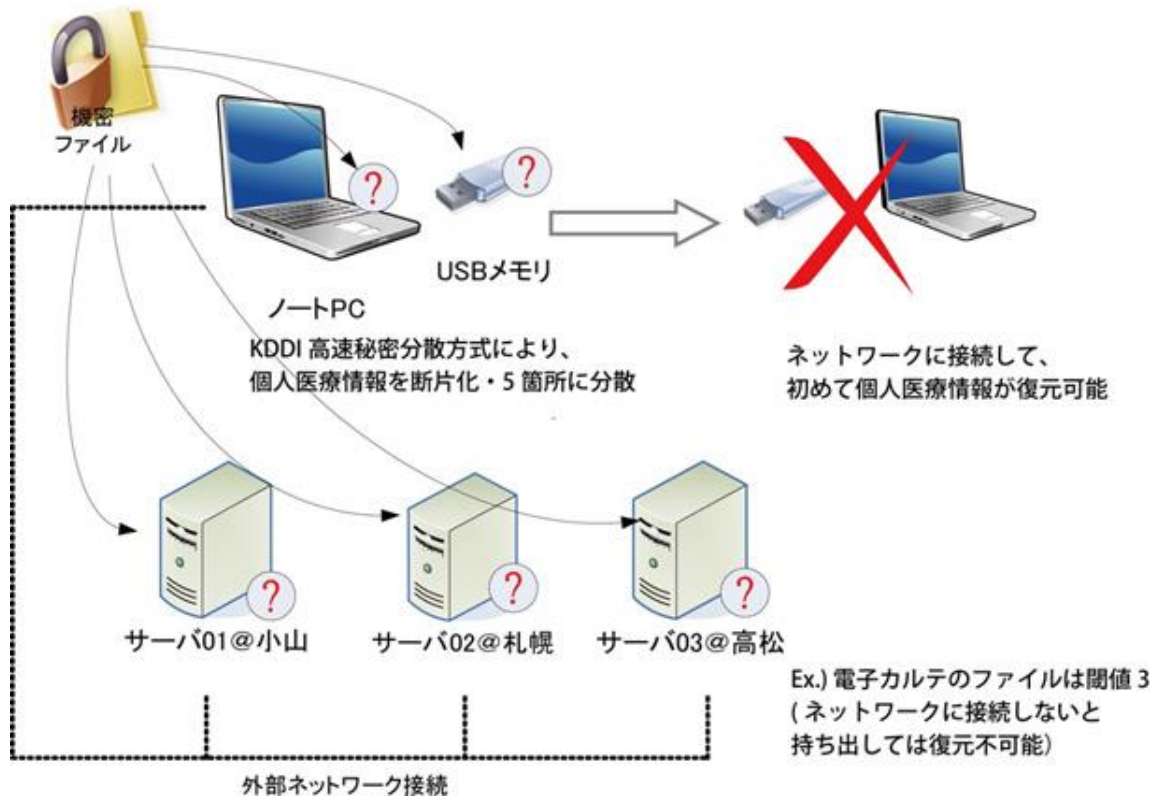


図 最重要機密情報の管理